

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	交通安全施設の整備（「文」マーク）						掲載ページ
							142
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	市民文化スポーツ局
		2,250 千円	2,250 千円	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課	安全・安心課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	子どもの交通事故防止対策として、通学路に「文」マーク路面表示を実施し、運転者に通学路に対する注意を促し、児童の登下校時の安全な交通を確保します。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	平成23年度中に策定予定の第8次北九州市交通安全計画に基づいて、その重点項目である「子どもの安全確保」に取り組みます。							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】		
	「文」マークの設置箇所数	68 箇所	55 箇所	71 箇所 129.1 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	年間の設置数を指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）							
					順調	順調		
（最終目標と最終年度）				やや遅れ 遅れ				

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成23年度は、71箇所（新設15箇所、再表示56箇所）に路面表示を実施しました。「文」マークを路面表示することにより、ドライバーに通学路である旨を知らせ、注意を促しています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	新規表示及び既存の表示箇所の磨耗による再表示について、それぞれ優先順位を設けて実施しています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
必要な箇所に路面表示できるよう、現地調査等を今後も継続して実施していきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	交通安全の推進					掲載ページ
						142
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局
		8,549 千円	9,844 千円	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課
						市民文化スポーツ局 安全・安心課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	交通事故死者数を減少させることはもちろん、交通事故発生件数自体の減少に取り組むことによって、安全で安心なまちを目指します。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	平成23年度中に策定予定の第8次北九州市交通安全計画に基づいて、その重点項目である「自転車の安全確保」、「高齢者の安全確保」、「飲酒運転の撲滅」に取り組みます。特に、本市は環境活動に積極的に取り組んでいることから、自転車ルール・マナーの向上に取り組んでいきます。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】		
	交通事故発生件数	8,859 件	件数減 （前年比較）	278件増	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	第8次北九州市交通安全計画（平成23年度～平成27年度）に基づき、各団体・関係機関が連携して交通安全対策に取り組むことにより、交通事故の発生件数の減少を目指します。 （最終目標と最終年度） 8,000件以下 平成27年 暦年						
交通事故死者数	31 人	人数減 （前年比較）	3人減	順調 やや遅れ 遅れ	順調		
	第8次北九州市交通安全計画（平成23年度～平成27年度）に基づき、各団体・関係機関が連携して交通安全対策に取り組むことにより、交通事故死亡者数の減少を目指します。 （最終目標と最終年度） 22人以下 平成27年 暦年						

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	交通事故発生件数は、過去最悪であった平成15年以降、若干の上下をしながら傾向的には減少傾向にはあります。死者数は、平成16年以降、毎年減少しています。交通事故は一朝一夕ではなくならないことから、これまでと同様に、市、警察や関係団体、地域が一体となって、交通安全運動に取り組んでいく必要があると考えています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	ポスターやチラシなどは県が作成したものを購入することで、経費の軽減を図っています。また、啓発物品については各区分を市で一括購入することで単価を引き下げています。引き続き、経済性・効率性の検討を進めていきます。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
今後も継続して啓発活動を実施し、交通事故防止を図ります。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	チャイルドシートの着用促進					掲載ページ
						142
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局
		970 千円	1,785 千円	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課
						市民文化スポーツ局
						安全・安心課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	チャイルドシート着用の徹底と適正な使用方法、その効果についての広報啓発活動を実施し、子どもの自動車乗車中の交通事故被害を軽減します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	平成23年度中に策定予定の第8次北九州市交通安全計画に基づいて、その重点項目である「子どもの安全確保」に取り組みます。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】	
	四季の交通安全運動の実施数					大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	四季の交通安全運動において、チャイルドシートの着用促進を重点項目等に掲げて啓発活動を実施していきます。 （最終目標と最終年度）2回以上 平成26年度		3 回	2 回	3 回 150.0 %		
	チャイルドシート着用率					順調	順調
北九州市における社団法人日本自動車連盟（JAF）が調査したチャイルドシートの着用率で、過去最高であった67%を最終目標に掲げています。 （最終目標と最終年度）67%以上 平成26年度		48 %	67 %	-	やや遅れ 遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	着用率を上げるため、四季の交通安全運動において「すべての座席のシートベルトやチャイルドシートの正しい着用の徹底」を重点項目に掲げ、啓発を実施しています。なお、これまで活動指標に社団法人日本自動車連盟（JAF）が調査したチャイルドシートの着用率を用いていましたが、JAFによる調査が実施されなくなったため、着用率の実績を把握することができませんでした。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	チラシや啓発物を見直すことによって、事業費を縮減しています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
チャイルドシートの着用について、引き続き、警察や関係団体等と連携して広報啓発活動を行います。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	若松校区内における通学支援便運行事業						掲載ページ
							143
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	交通局
		- 千円	- 千円	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課	総務経営課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	若松区には、児童・生徒の自宅から学校までの通学距離が非常に長く、徒歩による通学が困難な校区があるため、交通局の独自事業として通学支援便を運行し、小・中学生の通学手段を確保します。具体的には、江川小学校・花房小学校の児童向けには、学校行事に運行日時を合わせた専用通学支援便を運行し、小石小学校・向洋中学校の児童・生徒向けには、学校の登下校時間に一般乗合バスの運行時間を合わせます。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	事業の継続実施						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】		
	通学支援便の計画的な運行	実施	-	実施	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	学校行事に運行日時を合わせた専用通学支援便の運行や、学校の登下校時間に一般乗合バスの運行時間を合わせます。 （最終目標と最終年度）						-
				やや遅れ			
	（最終目標と最終年度）			遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	学校行事に運行日時を合わせた専用通学支援便の運行や、学校の登下校時間に一般乗合バスの運行時間を合わせました。また、児童・生徒が、通学支援便利用により、通学に伴う時間や体力負担の軽減、通学途中の安全確保、集団行動力の育成及び交通マナーの習得に役立っています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	<備考> 一般乗合バス事業の一つの運行系統としており、コスト面での評価はできません。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
<p>通学支援便の運行については、児童・生徒、父兄、地域住民及び学校関係者から評価を得ており、仮に通学支援便の運行が無くなれば、父兄による送迎や代替交通手段の確保、地域住民及び学校関係者による登下校時の安全確保が必要となります。</p> <p>今後も通学支援便の運行は必要ですが、交通局の厳しい経営状況の中で運行に伴う赤字を賄うには限界があるため、市等からの赤字額の補填が求められます。</p> <p>通学支援便の運行は今後も継続すべき事業であるため、運行に係る経費負担などの事業のあり方について、関係部局との協議を行います。</p>